

2015 年度継続教育実施委員会活動の報告

大成建設（株）フェロー会員 ○尾高 義夫（土木学会継続教育実施委員会 幹事長）
東京工業大学 正会員 竹村 次朗（土木学会継続教育実施委員会 委員長）

1. はじめに

土木学会の継続教育（CPD：Continuing Professional Development）は、2001年度の創設以来、技術推進機構が運用・普及に当たっている。2015年度は、①CPDガイドブックの改善検討、②CPDシステムソフトの改善、③地方における倫理講習会の開催、④eラーニングの試行、⑤全国大会研究討論会の企画、⑥CPDプロモーション、⑦建設系CPD協議会への参画に関する活動を行った。これらの活動内容を報告する。

2. 活動状況

①CPDガイドブックの改善検討、②CPDシステムソフトの改善

2011年度から2015年度（2016年1月31日まで）のCPD登録単位数の内容別の構成比率を、職種別に整理した結果を図2-1に示す。建設業は、自己学習の割合が40%近くあり講習会や講演会の比率が10%不足である。建設コンサルタントは、自己学習の比率が30%程度で講習会や講演会の比率は20%程度である。一方、官庁・独立法人は、大学、学術団体等の講師やその他社内研修会等の講師の構成比率が20%を超えている。このように業種による学習機会やCPD登録内容の差が発生しているため、CPDの普及促進に当たっては、業種ごとの極め細やかな対応が必要と考える。

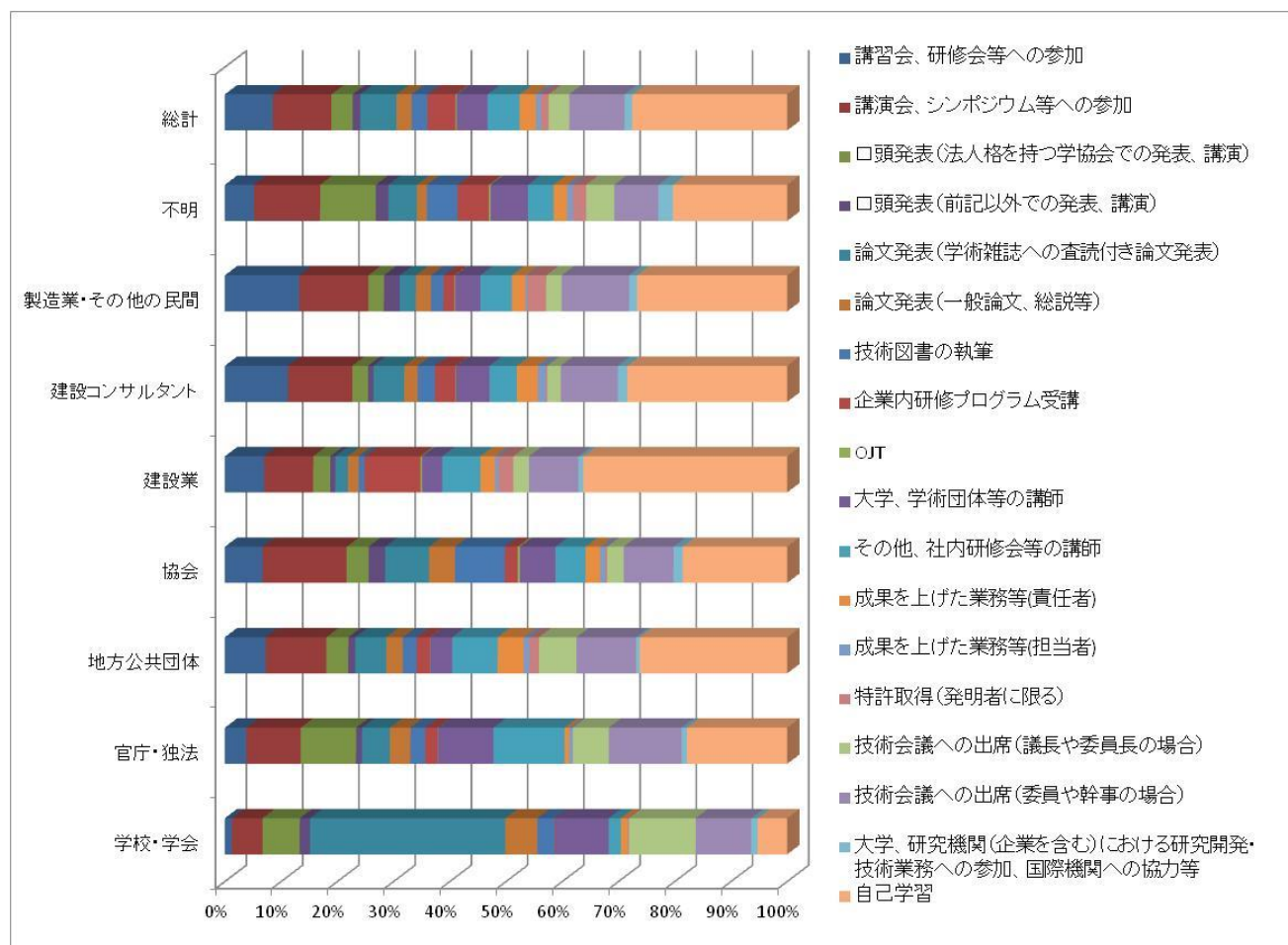


図2-1 職種別のCPD登録単位の構成

キーワード 継続教育，CPD，CPDガイドブック，CPD単位，eラーニング，技術者倫理

連絡先 〒980-0811 仙台市青葉区一番町 3-1-1 大成建設株式会社東北支店土木部 TEL 022-225-7617

2014年度のCPD登録単位の構成比率を、年間取得単位数が50未満と50以上の方々に整理した結果を図2-2に示す。50以上の方々は、講習会や講演会の参加、論文発表、技術会議の出席等に登録分野が多岐に分散している。一方、50未満の方々は、講習会や講演会の参加、自己学習が大半を占め登録内容が偏っている。これらの要因としては、未登録の学習、学習機会の偏り等が想定される。今後は50未満の方々について業種ごとにそれらの要因分析が必要と考える。

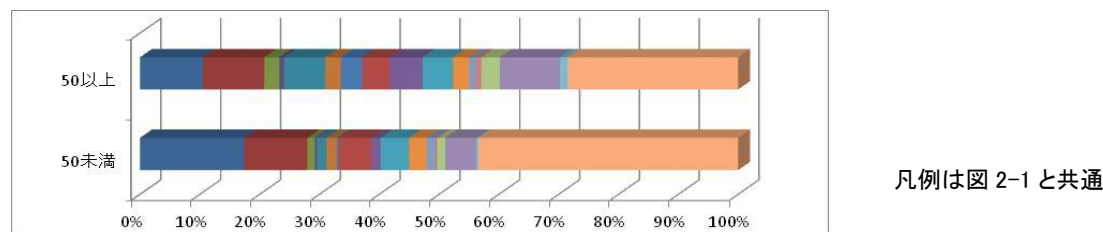


図2-2 年間取得単位の大小による登録単位の構成

③地方における技術者倫理講習会の開催

土木学会関東支部山梨会の主催で、昨年の7月16日に技術者倫理講習会の開催予定だったが、当日の悪天候による交通機関の遅延で中止になった。今年の7月に再び開催する方向で調整している。

④eラーニングの試行

土木学会認定の講習会の開催場所が東京や大阪等の大都市に集中している。例えば、建設会社の地方にある作業所に勤務している社員が、このような講習会を受講することは現実的に難しい。そのため、地方の会員の方々が講習会等を受講できるような学習形態のプラットフォーム構築のニーズが高まっている。そこで当委員会が編纂した「土木技術者論理問題－考え方と事例解説Ⅱ－」を利用したeラーニングの教材の試行版の作成を行い、2016年2月に、技術推進機構のウェブサイトに掲載した。eラーニング受講時に、今後のeラーニングの導入の是非や土木学会のCPD制度等に関するアンケートも合わせて実施した。アンケート結果を踏まえ、eラーニングの導入とCPDの普及促進について、委員会で議論していく予定である。

⑤全国大会研究討論会の企画

2015年度の全国大会の研究討論会で、「技術者にとっての生涯学習、その必要性と支援制度」を、本委員会が企画した。本研究討論会では、次世代を担う若手技術者として(株)建設技術研究所の清水嘉一氏、女性技術者として大成建設(株)の竹野明子氏、地方の技術者として岡山県備中県民局の松下定功氏、発注者側として中国地方整備局企画部長の野田勝氏を話題提供者として招き、生涯学習の必要性、その求められる学習内容と方法、更にはそれらを支援するための魅力ある技術者教育制度について討論した。

当日は、座長、話題提供者も含めて合計32名が参加し、会場からも自らの経験を踏まえた生涯学習の必要性、技術の若い世代への継承等について熱心な議論があった。今回は20代の参加者がわずか5%しかなく、アンケートでも、若手にもっとPRして欲しいという意見があった(図2-3)。次回の開催に当っては、若手へのPR方法についても事前に検討していく予定である。

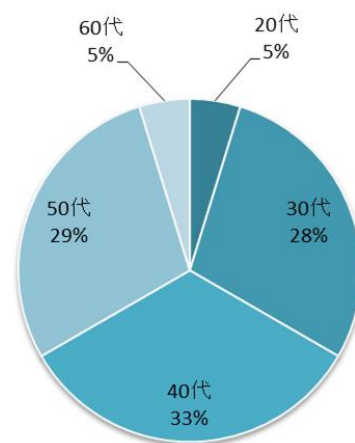


図2-3 参加者の年齢構成

⑥CPDプロモーション

昨年度から本委員会でも新たに取り組んだ活動である。幹事会でCPDやCPDシステムの利活用の推進について、フリーディスカッションを行っている。それらを踏まえ、前述した「④eラーニングの試行」や「⑤全国大会研究討論会の企画」の活動に反映した。eラーニング試行時のアンケートで、土木学会CPDの利用状況、利用しない理由、認知度、普及のための施策等について、会員からの意見を収集し、今後の活動に反映していく予定である。